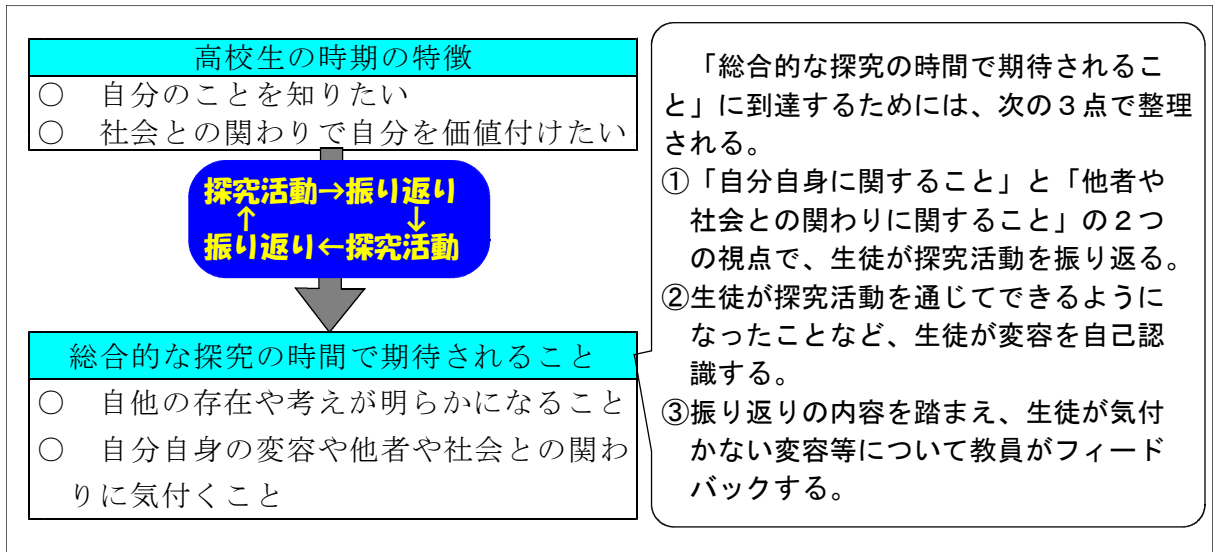


総合的な探究の時間

1 総合的な探究の時間の改善・充実

(1) 生徒が主体的に学びを深める振り返りと評価について

学習活動の振り返りを行うことは、生徒が自らを内省し、省察することにつながり、学びの意味や価値を生徒自身が自覚し、主体的に学びを深めることに結び付く。高校生の時期における特徴と、総合的な探究の時間で期待されることを整理すると、次のように示すことができる。



なお、「主体的に学習に取り組む態度」の単元の評価規準を作成する際には、次の3つの視点で生徒に育成を目指す資質・能力を設定するとともに、目指している具体的な成長の姿を生徒に示して振り返りを行うことが考えられる。

①自己理解・他者理解	②主体性・協働性	③将来展望・社会参画
<ul style="list-style-type: none"> ・探究を通して、自己を見つめ、自分の個性や特徴に向き合おうとする。 ・探究を通して、異なる多様な意見を受け入れ尊重しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意思で真摯に課題に向き合い、解決に向けた探究に取り組もうとする。 ・自他のよさを認め特徴を生かしながら、協働して解決に向けた探究に取り組もうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・探究を通して、自己の在り方生き方を考えながら、将来社会の理想を実現しようとする。 ・探究を通して、社会の形成者としての自覚をもって、社会に参画・貢献しようとする。

(2) 中間発表を起点とした振り返りの充実について

ア 指導計画における工夫

探究活動の充実に向けては、活動の過程において中間発表などの相互評価をする活動を位置付け、それぞれの探究の過程を質的に高め、目指す資質・能力の育成が期待できるよう、探究活動のまとまりを単元とした計画を作成することが大切である。

次の計画は、中間発表を起点に、生徒自ら、段階的に探究のプロセスを振り返ることができるように工夫した単元の指導計画例である。中間発表のねらいを、「生徒が自ら設定した探究課題の妥当性や収集した情報の整合性等について考察し、次の探究のプロセスの改善や、課題を省察する機会とする」と設定し、生徒及び外部人材を含

めた関係者全員が、中間発表のねらいを共有することにより、振り返りが充実するよ
うに工夫している。

<〇〇高校1学年 総合的な探究の時間 年間指導計画例>

月	学習内容等	時数	重点を置く観点	活動形態
4	・「総合的な探究の時間」のねらい ・3年間の見直し ・探究学習を進めるための技法について	2	知識・技能	学年
5 ~ 7	・課題の設定 ・探究計画の立案 ・情報の収集 ・情報の整理・分析	10	思考・判断・表現	課題別グループ
8 ~ 9	・中間発表に向けて(まとめ・表現) ・中間発表(ポスターセッション) ・中間発表を終えて	11	思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	課題別グループ 学年

<指導計画>

【中間発表のねらい】

生徒が自ら設定した課題の妥当性や収集した情報の整合性等について考察し、次の探究のプロセスの改善や、課題を省察する機会とする。

【ねらいを達成するための手段】

個々の生徒が、発表を通して自己の興味や関心について整理し、他者と交流する。

【主な学習活動と指導上の留意点】

学習内容等	活動とねらい	指導に関わる留意事項
中間発表 に向けて (5時間)	○ 発表準備 ・中間発表の <u>ねらい</u> を理解し、これまでの探究活動の過程をまとめる。 ・これまでの探究活動をまとめ、言語化する中で、自己の関心や興味を整理し、収集した情報の内容や不足等について認識する。 ・発表、交流する際の <u>ポイント</u> について確認する。	・質を高められるよう、ねらいを意識して発表に臨むよう伝える。 ・中間発表の際の、発表・交流する際の <u>ポイント</u> を確認し、中間発表が次の探究活動の充実に繋がる機会となるよう促す。
中間発表 (4時間)	○ 発表者 ・聞き手が中間発表を聞く際の視点とするため、探究活動の過程で課題と感じていることを伝える。 ・相手の反応を予想しながら、分かりやすく伝わるように工夫する。 ○ 聞き手 ・発表者の課題を踏まえ、気付きや疑問等を記録する。 ○ 交流 ・発表者は、自身の課題が明確になるよう、多様な意見を尊重する姿勢で聞き手に問いかける。 ・聞き手は、発表者の課題を踏まえ、質問や感想を投げかける。	・外部人材に評価を依頼する場合、評価者に対して、活動の <u>ねらい</u> や <u>評価基準等</u> を事前に伝え、十分な理解を得ておく。 ・生徒の興味・関心、目の付けどころ、発想や気付きなど、探究の独自性や学びの過程を評価し、生徒の成就感や自己肯定感の高揚につながるようにする。
中間発表 を終えて (2時間)	○ <u>振り返りシート</u> の記入 ・中間発表までの準備を通して習得した知識、視点、技能等について整理する。 ・自身の興味・関心と課題の適切さについて省察する。 ・課題と収集した情報の整合性について確認する。 ・次の探究を進める上で必要な、新たに必要情報を整理・分析する。 ・探究の意義や価値について整理する。 ○ 探究計画の見直し	・中間発表の様子を通して、生徒が自己の変容を認識できるよう、個々の生徒に育まれたよい点や成長の状況等を積極的に評価する。 ・生徒のよさや可能性、努力の様子などを個人内評価として生かす。 ・質疑応答を踏まえ、新たに収集する必要がある情報等を整理する。

イ 発表・交流の際の工夫

振り返りの充実に向けた工夫として、発表や交流の場面ごとのねらいに応じたポイントを整理し、生徒等に事前に示すことが大切である。また、主として「自分自身に関すること」と「他者や社会との関わりに関すること」の2つの視点を生徒が意識して振り返ることができるようにすることや、探究の過程における「思考力、判断力、表現力等」の育成を意識し、生徒に関わる人の立場に応じてポイントを整理し、事前に生徒に示すことが大切である。次に示すようなポイントを活用することで、発表した生徒自身が気付かない点についてフィードバックを受け、その後の活動につなげていくことが重要である。

発表する際のポイント

- ・どのような問い（違和感、必要感、矛盾）から課題を設定したか説明する。
- ・課題解決に向けてどのような取組（情報収集や、整理・分析の方法など）を行ってきたか説明する。
- ・これまでの探究活動から、どのような考えをもつことができるようになったか説明する。

発表を聞く際のポイント

- ・異なる多様な意見を受け入れ尊重する。
- ・問いに対して適切な課題（仮説）が設定されているかどうかを意識する。
- ・課題（仮説）と課題解決に向けた取組（情報収集、情報の整理や分析の方法等）の整合性を意識する。

交流する際のポイント

教員・外部人材

- ・生徒の取組を認め、生徒の自己肯定感が向上するようにするなど、次の探究活動に取り組む意欲の向上に繋がるような助言を心がける。
- ・自身の専門性や経験等を踏まえ、生徒の探究活動の取組を評価するとともに、生徒の新たな気付きにつながるような助言を心がける。

発表を聞いた生徒

- ・自分自身にはなかった考えを前向きに評価するなど、異なる多様な意見を受け入れ尊重する。
- ・問いや課題（仮説）に対する気付きや疑問等を投げかける。
- ・課題解決に向けた取組に対する気付きや疑問等を投げかける。

発表した生徒

- ・質問に回答する際は、できる限り根拠を示して回答する。
- ・異なる多様な意見を受け入れ尊重する姿勢をもち、他者からの批評を受け止めつつ、自身のよさや課題に目を向ける。
- ・幅広い可能性を視野に、異なる多様な意見を今後の探究活動の充実につなげる。

ウ 振り返りシートにおける工夫

振り返りシートにおいては、次に示すように、生徒がこれまでの取組を見直すことで、次の探究活動に向けて見通しをもつとともに、自己の変容を認識できるようにし、「思考力、判断力、表現力等」を育成できるようにすることが重要である。

〇〇高等学校「総合的な探究の時間」中間発表 振り返りシート 1年〇組 名前

新たに習得した知識、視点、技能等	新たに必要な情報	新たに必要な整理・分析の視点

これまでの探究活動の過程（中間発表を含む）を通して、あなたはどのようなことに気付き、設定した課題に対する疑問や考えはどのように変化しましたか。

--

課題（仮説）について見直しが必要な場合は、見直しの方向性を示してください。（複数可）

--

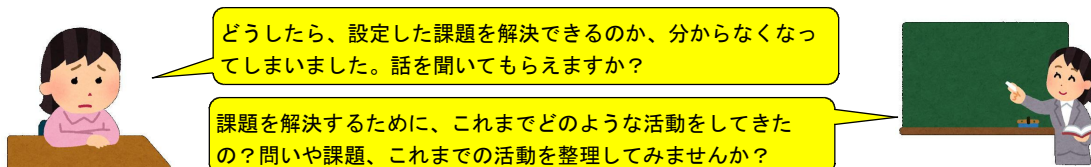
今後の探究計画

10月	11月	12月	1月	2月
				成果発表会 振り返り・まとめ

(3) 探究の過程が発展的に繰り返されることを意図した振り返り（事例）

振り返りにおいては、次に示すような手立てをもとに、探究の過程が発展的に繰り返されていくことを意識して指導することが大切である。

【事例1：日常の振り返り】探究活動に行き詰まった生徒とのディスカッション

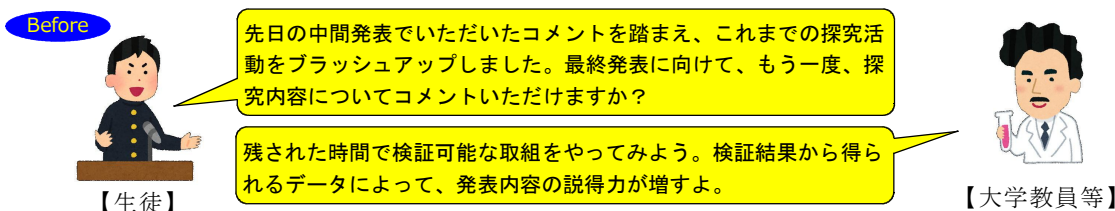


【生徒】

【先生や地域コーディネーター】

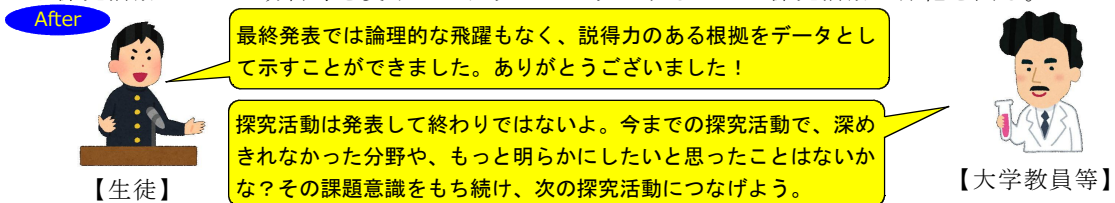
探究活動を進める中で、生徒自らが悩んだり行き詰まったりした時に、生徒自ら課題担当の教員や地域コーディネータにファシリテートを依頼し、これまでの探究活動の取組や方法について検討し、随時、探究活動の方法を修正する。その際、生徒の主体性を重視し、探究の過程を繰り返す中で、探究が自立的に行われることを目指す。

【事例2：定点での振り返り】中間発表後の外部有識者等との関わり



中間発表における大学教員等の外部有識者からの助言等を受けた後、生徒が担当の教員とともに、これまでの探究の取組を振り返り、後半の取組を検討する。

その後、検討した方法で探究のプロセスを繰り返し、最終的な成果発表会の前にもう一度、大学教員等から探究活動について助言等を受けてブラッシュアップすることで探究活動の深化を図る。

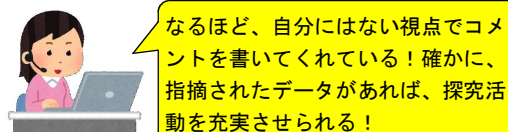


生徒が発表会后に大学教員等から助言を受けるとともに、教員が発表会に参加した大学教員等の有識者や、近隣高校の探究を担当している教員と研究協議を行い、学校全体の探究の取組について専門的な知見からアドバイスを受け、学校としての探究活動の在り方についても改善を図る。

【事例3：生徒同士での振り返り】Googleフォームの活用や他校生徒との交流

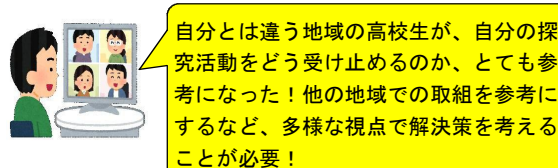
○ Googleフォームの活用

自校の生徒同士で、設定した項目に対して5段階で相互に評価する。また、感想に加え、「活動のよかった点、期待できる点」、「活動における改善点」などを自由記述で回答し、発表者へフィードバックし、その後の探究活動について検討・改善を図る。



○ 他校との生徒同士での振り返り

学校間で生徒同士のオンライン発表を行い、相互に発表や質疑応答を実施することで、新たな問題解決の視点を得る。その後、交流で得た視点を踏まえ、これまでの探究活動を振り返り、今後の取組を見直し、ブラッシュアップを図ることで、更なる探究学習の質を高める。



2 「探究チャレンジ・アジア」の取組（概要）

北海道教育委員会では、令和4年度から令和6年度までの3年間、各教科の学習を実社会での問題発見・解決に生かすことを目的に、教科等横断的な探究学習を実施する「S-TEAM教育推進事業」を実施した。全道の高等学校及び特別支援学校高等部の生徒が取り組んだ探究活動の成果を発表する『『探究』チャレンジプロジェクト』では、令和7年2月1日（土）に北海道大学学術交流会館で、各学校で取り組んだ探究活動の成果を全道規模で発表する「探究チャレンジ・アジア」を実施した。

日程

北海道と海外の生徒による探究活動の交流（Zoom）

道内と海外の生徒が、オンラインで探究活動の発表・質疑等の交流を実施
 ※海外：3カ国3校
 （韓国、タイ、ベトナム）

探究活動成果発表（ポスターセッション）

北海道内の各ブロック代表校等が一堂に会し、ポスターセッションによる交流を実施
 ※参加校：29校

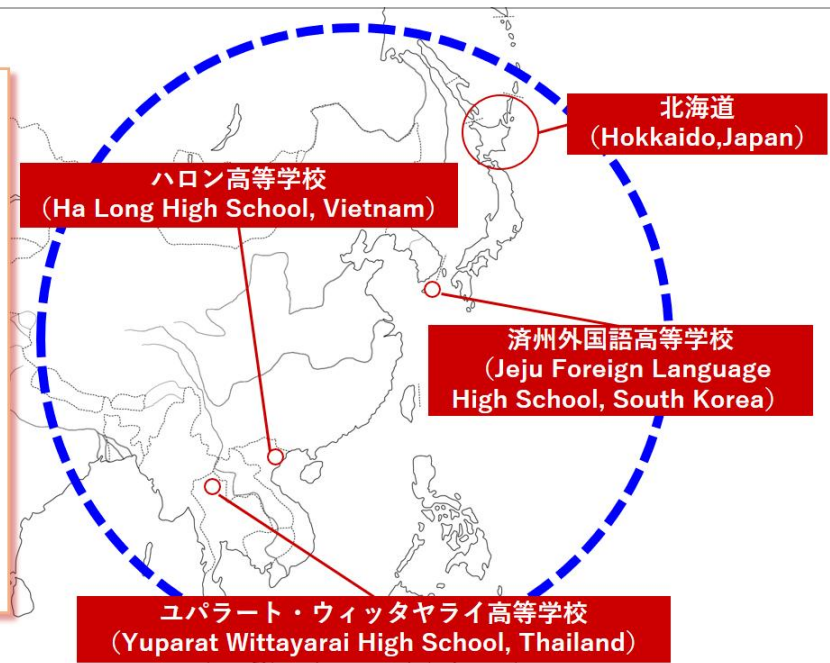
表彰

北海道知事賞
 札幌市長賞
 北海道大学賞
 ニトリ賞
 北海道教育委員会教育長賞
 （英語発表部門）
 ゼロカーボン探究賞

参加校

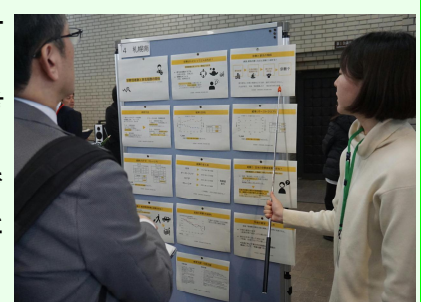
北海道内の参加校

砂川高等学校	札幌西高等学校
札幌国際情報高等学校	札幌南高等学校
余市紅志高等学校	鷗川高等学校
静内農業高等学校	函館中部高等学校
旭川北高等学校	下川商業高等学校
羽幌高等学校	斜里高等学校
湧別高等学校	帯広農業高等学校
標茶高等学校	函館西高等学校
網走桂陽高等学校	伊達開来高等学校
千歳高等学校	釧路湖陵高等学校
浦河高等学校	帯広柏葉高等学校
大空高等学校	札幌旭丘高等学校
旭川高等支援学校	
札幌あいの里高等支援学校	



参加生徒の感想

- 答えのない、かつ漠然とした課題に対して、ゼロからアプローチをしていくというのは非常に難しい挑戦でしたが、思いどおりの結果にならなくても、新たな発見があるかもしれないという考え方を身に付けて研究を続けることができました。
- 海外の発表を英語で聞くという貴重な機会をいただけて光栄でした。自分の研究と似たような研究をしている高校もあり、新たな気づきを得ました。
- 賞は取れませんでした。が、確実に以前の自分より成長できたと感じたので、よい経験になりました。



【探究活動の成果を発表している様子】

Topic

◎「BRIDGE構築事業」の取組

道教委では、令和7年度から令和9年度までの3年間、道立高等学校、道立中等教育学校及び道立特別支援学校（高等部）において、生徒一人一人が協働性、社会貢献意識、自己肯定感を高めて自己実現できるよう、教科等横断的な視点で探究的な学習を充実させ、将来の北海道を担う人材を育成することを目指して、「BRIDGE構築事業」に取り組むこととしている。

「BRIDGE構築事業」は、『Ezo探究』プロジェクト。「『アントレプレナーシップ教育』推進プロジェクト」、「『実社会・実生活と結び付いた課題設定』支援プロジェクト」、「『教科等横断』推進プロジェクト」の4つのプロジェクトで構成され、生徒だけではなく、生徒を伴走支援する教員、生徒の探究活動を支援する自治体等の地域に働きかけ、探究活動の充実を図ることとしている。

課題の設定	情報の収集	整理・分析
「アントレプレナーシップ教育」推進プロジェクト		
生徒が新たな価値を創造		
連携: 四者連携、産業振興課、スタートアップ推進室、地域戦略課		
<ul style="list-style-type: none"> ○全道1ブロックで、8月に3泊4日の参集型「アントレ・キャンプ」の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・企業経営者、大学の教員等による講義、課題提起 ・企業訪問等のフィールドワークによる実践を踏まえ、新たな価値を創造するビジネスモデルの提案 ・学校を超えたチーム編制 ○成果発表会を実施し、代表に選ばれた生徒は、「Ezo tan」で企業と連携して取り組んだ実践について成果発表 ○キャンプを充実させるため、大学教員等を講師とした事前・中間報告・事後指導の実施 		
次世代リーダーの育成	地域創生	先進的取組の実践・普及

「Ezo 探究」プロジェクト		
まとめ・表現		
生徒が北海道のみらい像を提案		
【tan-fest in 高】 ○各学校で、探究活動に取り組んだ成果を発表(学校代表の選出)		
【tan-fest in 管内】 ○各学校の代表生徒が、管内大会で成果発表(管内代表の選出)		
【Ezo 探究-festival】(通称: Ezo tan)		
会場 北海道大学等		
<ul style="list-style-type: none"> ○ステージ発表 <ul style="list-style-type: none"> ・「アントレプレナーシップ教育」推進プロジェクトの代表 ・「課題設定」支援プロジェクト指定校の代表 ○ポスターセッション <ul style="list-style-type: none"> ・各管内等の代表、特別支援学校(高等部)の代表 ・市町村立高等学校、私立高等学校の代表 ○生徒同士、教員同士のリフレクション・研修 		
文化の創造	学校を超えた交流の広がり	

課題の設定	情報の収集	整理・分析
「実社会・実生活と結び付いた課題設定」支援プロジェクト		
地域と学校の連携強化		
連携: 各振興局商工労働観光課、社会教育課、各教育局OPSV		
【総合的な探究の時間普及・充実事業】		
<ul style="list-style-type: none"> ○「総合的な探究の時間」合同説明会、事例報告会の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・指定校の存する地域で説明会等を実施、総合的な探究の時間の浸透 ・生徒の探究活動を支援する自治体・協力企業等のリスト化 【グローバル課題探究支援事業】 ○指定校の生徒が自治体等と連携し、グローバルな視点で地域課題を探究 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が「Ezo tan」で地域と連携して取り組んだ実践について成果発表 ・指定校の取組を充実させるため、大学の教員等による講義等を実施 【地域連携担当教職員支援事業】 ○地域連携担当教職員を対象とした研修の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・道立高校と自治体等の持続可能な連携体制の構築 		
探究を支える仲間を増加	地域の協働体制の進化	10地区各1指定校

課題の設定	情報の収集	整理・分析
「教科等横断」推進プロジェクト		
教員の資質・能力の向上		
【伴走支援充実事業】		
<ul style="list-style-type: none"> ○全教員を対象とした、生徒の伴走支援に必要な資質・能力の向上を目指した研修(オンライン、オンデマンド) <ul style="list-style-type: none"> ・大学の教員等を講師に、「ファンリテーション」、「ディベート」、「データサイエンス」、「デザイン」などの講習を実施 【探究型学習実践事業】 ○教科等における探究的な学びについての研究(※①、②は授業研究チームを編制) <ul style="list-style-type: none"> ①教科等横断型(「環境」や「防災」など現代的な諸課題がテーマ) ②教科指導充実型(共通教科、専門教科) ③探究活動支援型(総合的な探究の時間、特別支援教育、生成AI等) 		
※授業研究チームの教員を「探究的学習推進教師」とし、各地域で普及		
探究を支える力の積み上げ 探究的な学びの深化		
連携: 四者連携、東京学芸大学		

4つのプロジェクトのうち、「『アントレプレナーシップ教育』推進プロジェクト」の一環として行った、「[アントレ・キャンプ](#)」について報告する。

○実施日：令和7年8月5日(火)～8日(金) ○会場：ネイパル深川
 ○テーマ：『「CHANGE MAKER CAMP」～社会課題を変える“みらいの道具”を創れ～』
 ※「CHANGE MAKER」＝「試行錯誤を繰り返し、社会に変化を起こす人」のこと

○概要：4日間で、「課題設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現」の探究活動を実施

<1日目> <ul style="list-style-type: none"> ○社会課題のインプット 社会課題等の背景を学習、理想を描く ○チームビルディング 学校を超えたチーム編制 ○課題の深掘り 課題の背景等を探るワーク 	<2日目> <ul style="list-style-type: none"> ○プロトタイプ制作 まずは実践。「小さく・早く・何回も」がポイント ○学生起業家のプロトタイプ 学生起業家が作ったゲーム(チャレンジ・ピッツァ)を体験 	<3日目> <ul style="list-style-type: none"> ○中間発表 ○アイデア再構築 	<4日目> <ul style="list-style-type: none"> ○最終発表、修了式
---	--	---	---